岐阜 コメのある風景 ⑭

夢のコメ「龍の瞳」

地域活性化の起爆剤に

栽培法にこだわり 里づくり実現目指す

一流ブランド米を超える味と山間地域で作りやすいコメ―そんな夢が現実になるかもしれない。下呂市萩原町の兼業農家今井隆さん(四八)が、偶然発見した大粒で粘りがある「龍の瞳(ひとみ)」。まだ新品種かどうかなどは確認中だが、今井さんは生産者仲間と一緒に夢のコメ作りに意欲を燃やし、地域活性化の起爆剤になると意気込む。国の施策が変わり、コメ作りが厳しい局面を迎えた中、県内の多くを占める山間地域の農家にとって朗報となるか―。

二〇〇〇(平成十二)年秋、黄色く実った自分の田んぼのコシヒカリの中に、特別草丈が長く、もみが非常に大きい穂を十数本見つけた。長年、水稲の作況調査に携わった経験から「新品種では」と直感。とにかく育ててみようと翌年から十五平方㍍、二㌃、五㌃と栽培面積を増やし、今年は町内のコメ作り仲間七人の協力を得て、気温や栽培方法などが異なる九十二㌃で栽培した。

作ってみて驚いた。もともと今井さんは、肥料もほかしを使うなど「こだわりの農業を実践しており、無農薬で栽培したところ「イモチ病にもある程度強いのではないか」という印象だった。茎が太いので倒れにくく、倒れても、もみが発芽しにくいため品質が保てる。冷夏だった昨年でも平年並み、台風が相次いだ今年も、十㌃当たり収量が平年を超える五百数十㌔を見込んでいる。

検査機関からは、アミロースが18・4で、粘り気が強いというデータが出た。コシヒカリなど三品種の試食アンケートの結果も、▽十五平方㍍、二㌃、五㌃と栽培面積を増やし、今年は町内のコメ作り仲間七人の協力を得て、気温や栽培方法などが異なる九十二㌃で栽培した。

作ってみて驚いた。もともと今井さんは、肥料もほかしを使うなどこだわりの農業を実践しており、無農薬で栽培したところ「イモチ病にもある程度強いのではないか」という印象だった。茎が太いので倒れにくく、倒れても、もみが発芽できる。

ただし今井さんは、収入を優先するだけのコメ作りは拒む。それでは、「龍の瞳」がこれからの山間地域の農家を支える。夢のコメ―にはならないからだ。「国は大規模農家に支援を集中する方向性を示しており、今後安いコメの輸入も考えられる。その中で、高齢化や後継者不足で耕作放棄地が増える水田をだれがどうするか、コメ作りを地域づくりの中に位置付けたいんです」

そのために、「龍の瞳」の里づくりを構想する。「水の源となる山は針葉樹と広葉樹の混合林にし、川の水は間伐材を利用した炭で浄化して田んぼにひく。土づくりにも力を入れて、有機肥料を使い、可能な限り低農薬で栽培して、トンボやドジョウが生息する自然を取り戻す。癒やしや安らぎを求める人たちが集う場所、人づくりの里にしたい」

「龍の瞳倶楽部」を組織して、慎重に「龍の瞳」を育てるつもりだ。今井さんのコンセプトに共感してくれる仲間も募る。まず下呂市内で、さらに飛騨や奥美濃地方で。「龍の瞳の里づくりを、国土を守り、地域をはぐくんでいくコメ作りにつなげたい」と願う。難題が山積するコメ事情のなか、今後の展開に熱い視線が集まっている。

(内木いづみ)

《この企画は毎月一回掲載します》

偶然見つけた夢のコメ「龍の瞳」に地域活性化を期待する今井隆さん=下呂市萩原町